

キハダ 大西洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*

管理・関係機関

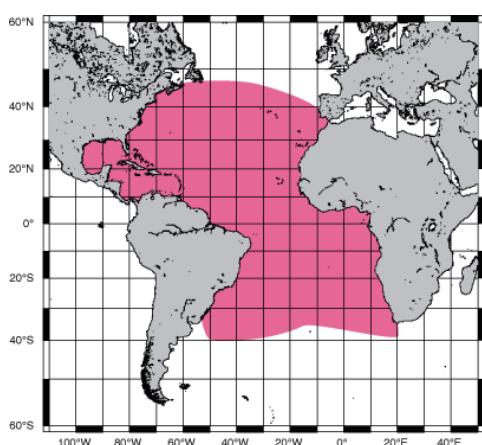
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近の動き

2015 年の総漁獲量は 10.8 万トン（予備集計）で前年の 112% であった。資源評価は 2016 年 7 月に ICCAT により行われた。MSY は 12.6 (11.9 ~ 15.1) 万トンと推定され、2015 年の漁獲量より大きい。2014 年の資源量は MSY レベルよりやや小さく ($B_{2014}/B_{MSY}=0.95$ (0.71 ~ 1.36))、2014 年の漁獲圧は MSY レベルより小さい ($F_{2014}/F_{MSY}=0.77$ (0.53 ~ 1.05)) と推定された。したがって、2014 年において、本資源は乱獲状態だが、適正なレベルに近く、本資源への漁獲圧は過剰でなかったといえる。2016 年 11 月の ICCAT 年次会合で TAC (11 万トン)、FADs 操業の制限（禁漁期、禁漁区域、FADs 設置数の上限）などの資源管理方策が採択された。

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7 ~ 10 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



大西洋におけるキハダの分布域

利用・用途

刺身、すし、缶詰など

漁業の特徴

大西洋におけるキハダ漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃から、竿釣り及びはえ縄漁業が開始された。当初は、はえ縄の漁獲が多くを占めたが、最近年は、まき網が主となっている。主漁場は熱帯域であり、とくに東部大西洋からの漁獲が多い。近年は、まき網の FAD 操業の漁場が拡大し、南は西アフリカ沿岸の南緯 15 度付近、北はモーリタニア沖合の北緯 15 度付近まで拡がっている。はえ縄は大西洋のほぼ全域で操業が行われている。竿釣り漁業は東部、西部大西洋の沿岸部で行われている。

漁獲の動向

漁獲量は、当初から 1970 年代までは概ね増加傾向にあり、1980 年以降は 10 万 ~ 19 万トンの間で変動し、最近年は、全漁獲量のうちおおよそ 70% がまき網、16% がはえ縄、8% が竿釣りにより漁獲されている。2015 年の総漁獲量は 10.8 万トン（予備集計）であった。

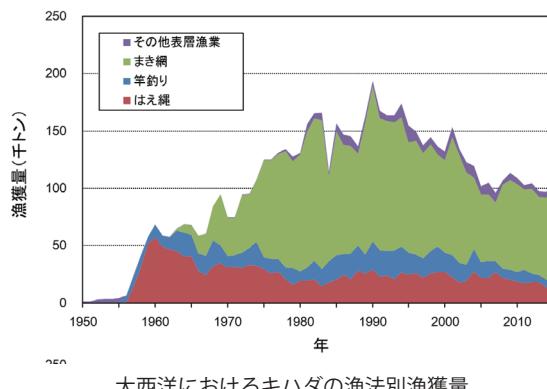
資源状態

最新の資源評価は ICCAT により 2016 年に行われた。資源評価モデルは、非平衡プロダクションモデル (ASPIc)、年齢構造を持つプロダクションモデル (SCAA, ASPM の一種)、VPA 2-Box 及び Stock Synthesis (SS) が用いられた。MSY は 12.6 (11.9 ~ 15.1) 万トンと推定され、2015 年の漁獲量より大きい。2014 年の資源量は MSY レベルよりやや小さく ($B_{2014}/B_{MSY}=0.95$ (0.71 ~ 1.36))、2014 年の漁獲圧は MSY レベルより小さい ($F_{2014}/F_{MSY}=0.77$ (0.53 ~ 1.05)) と推定された。したがって、2014 年において、本資源は乱獲状態だが、適正なレベルに近く、本資源への漁獲圧は過剰でなかったといえる。将来予測を行うと、漁獲量 11 万トンとした場合、2024 年に資源と漁獲圧が健全な状態 ($B_{2024}/B_{MSY}>1$ 、 $F_{2024}/F_{MSY}<1$) である確率は 97% と推定された。

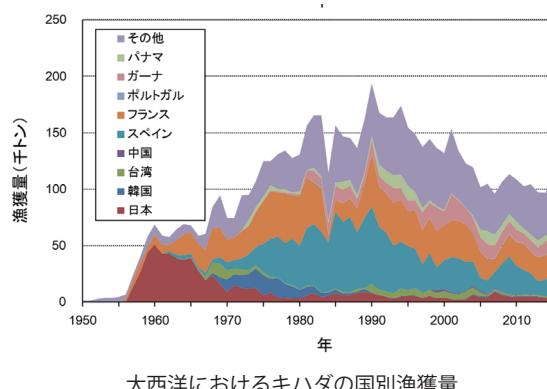
管理方策

ICCAT の Recommendation 16-01 に基づき、資源管理措置が講じられている。将来にわたる持続的利用を確実にするため、TAC (11 万トン) が設定されている。また、FADs を利用するまき網の禁漁期 (1 月 1 日 ~ 2 月 28 日)、禁漁区域 (南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度とアフリカ西岸で囲まれた海域) 及び各まき網船の 1 年間の FADs 設置数の上限 (500 基) が導入されている。

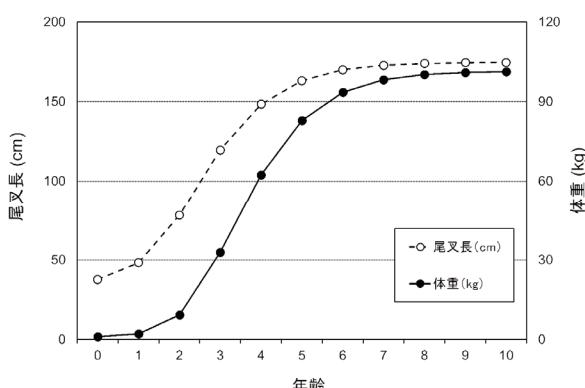
資源状態のまとめ	
<ul style="list-style-type: none"> 2016 年にプロダクションモデルと年齢構成モデルにより資源評価 MSY は 12.6 (11.9 ~ 15.1) 万トンと推定され、2015 年の漁獲量より大きい 2014 年の資源量は MSY レベルよりやや小さく ($B_{2014}/B_{MSY}=0.95$ (0.71 ~ 1.36))、2014 年の漁獲圧は MSY レベルより小さい ($F_{2014}/F_{MSY}=0.77$ (0.53 ~ 1.05)) 2014 年には、本資源は乱獲状態だが、適正なレベルに近く、本資源への漁獲圧は過剰でなかった 	



大西洋におけるキハダの漁法別漁獲量

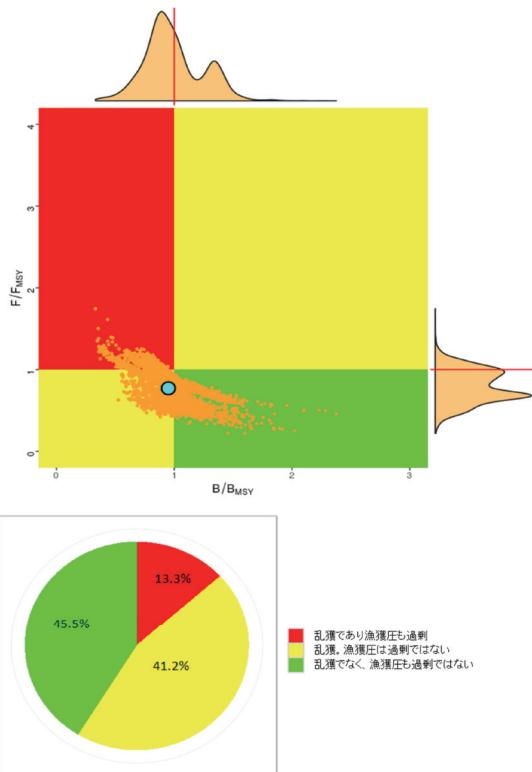


大西洋におけるキハダの国別漁獲量



大西洋におけるキハダの成長 (Gascuel et al. 1992)

管理方策のまとめ	
<ul style="list-style-type: none"> TAC (11 万トン) まき網 FADs 操業の禁止期間・禁漁区域及び FADs 設置数の上限の設定 	



大西洋キハダの資源解析結果

上図：7 つの資源評価モデルのブートストラップ試行の結果を統合。大きな青丸は 2014 年の状態を示す。オレンジ丸は 3500 回 (7 モデル X 500 回) の各ブートストラップ試行の分布を示す。縦軸は漁獲圧、横軸は資源量で現状／持続可能な値の比で示す。神戸プロットの上側と右側に、それぞれ横軸、縦軸についての頻度分布図を示す。

下図：統合されたブートストラップ試行 (3500 個 (7 モデル X 500 回) が分布する

キハダ (大西洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	9.7 万 ~ 10.9 万トン 最近 (2015) 年 : 10.9 万トン 平均: 10.2 万トン (2011 ~ 2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.3 万 ~ 0.4 万トン 最近 (2015) 年 : 0.4 万トン 平均: 0.4 万トン (2011 ~ 2015 年)
最新の資源評価年	2016 年
次回の資源評価年	2021 年